



HX632D

Picosuke

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3 ページより

はじめに

11 ページより

お使いになる前の準備

15 ページより

各モードの使いかた

21 ページより

こんなときには

29 ページより

ご参考に

ご使用まえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は、感電注意が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
左図の場合は、分解禁止が描かれています。



●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。
左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

危険

- 使える電池は、単3形のアルカリ電池・マンガン電池・別売のリチウムイオンバッテリーパックCNB632です。これ以外の電池は、使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手で電池の取り付け・取り外しを行わないでください。感電の原因となります。
- リチウムイオンバッテリーパックCNB632を充電するときは、当社指定の充電器を使用してください。これ以外の充電器は、使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 使用済の電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。
- 電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。
- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。



⚠ 警告

- 自動車等の運転中はこの機器を操作しないでください。交通事故の原因となります。
- 病院内や航空機内など、使用が禁止された場所では、この機器の電源を切ってください。医療機器や電子機器の動作に支障をきたす恐れがあります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因になります。



⚠ 警告

- 水につけないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



- 本機の分解およびアンテナの付け替え等は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。
- 本機は、電波法第4条「技術基準適合証明を受けた無線局」です。本機の背面に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。証明ラベルをはがすと、技術基準適合機としての効力を失い使用できなくなります。



⚠ 注意

- 機器で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。



- 電池の極性表示（プラスとマイナスの向き）を確認してから機器内に挿入してください。間違えますと電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。



- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。

- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。

- この機器を長期間ご使用にならないときは、電池を本機から取り外してください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。



⚠ 注意

- 乳幼児の手の届かないところで、電池は使用・保管を行ってください。



もくじ

本書について	2
はじめに	3
ご確認ください	4
HX632Dについて	5
ベルトクリップの取り付けかた	5
正しくお使いいただくために	6
電池を入れるには	7
使ってみましょう	8
モードについて	9
 お使いになる前の準備	11
各部の名前	12
音量を調整するには	12
ディップスイッチを設定するには	13
チャンネルを合わせるには	13
モードを設定するには	14
 各モードの使いかた	15
単信モードを使うには	16
グループ単信モードを使うには	16
中継通信モード／中継局モードを使うには	17
複信モードを使うには	18
グループ複信モードを使うには	19
お話しするときの注意	20

こんなときには	21
話しを聞かれたくないとき	22
話しがとぎれるとき	22
バッテリーセーブを解除するとき	23
間違って動作するのを防ぎたいとき	23
キー操作音（ピープ音）を消したいとき	24
表示部に照明をつけるとき	24
複信時の通話をモニターするには	25
買った始めの状態に戻したいとき	26
表示部が分からないとき	26
外部電源ジャックについて	27
複信・グループ複信モードを便利に使うには	27
チャンネルを拡張するには	28
 ご参考に	29
故障とお考えになる前に	30
オプション（別売品）の紹介	32
定格	33
アフターサービスについて	34

本書について

本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。

本書では、参照していただくページを「**P**」を使って表しています。

例えば、「**P** 10」と書かれている場合は、10ページを参照ページとしてご覧ください。

はじめに

ご確認ください	4
HX632Dについて	5
ベルトクリップの取り付けかた	5
正しくお使いいただくために	6
電池を入れるには	7
使ってみましょう	8
モードについて	9

はじめに

ご確認ください

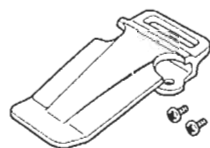
- 保証書には、お買い上げ店名および日付けが記入されていますか。
- 付属品は、そろっていますか。

HX632D 本体

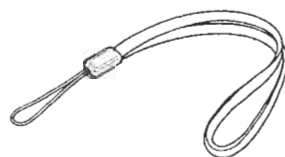


乾電池ケース
(HX632Dに付属)

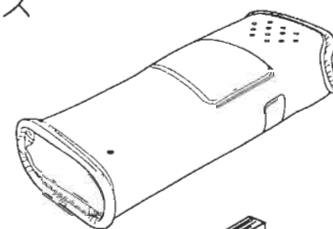
ベルトクリップ



ハンドストラップ



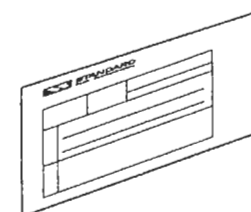
キャリングケース



取扱説明書



保証書



(株)スタンダード全国営業所一覧

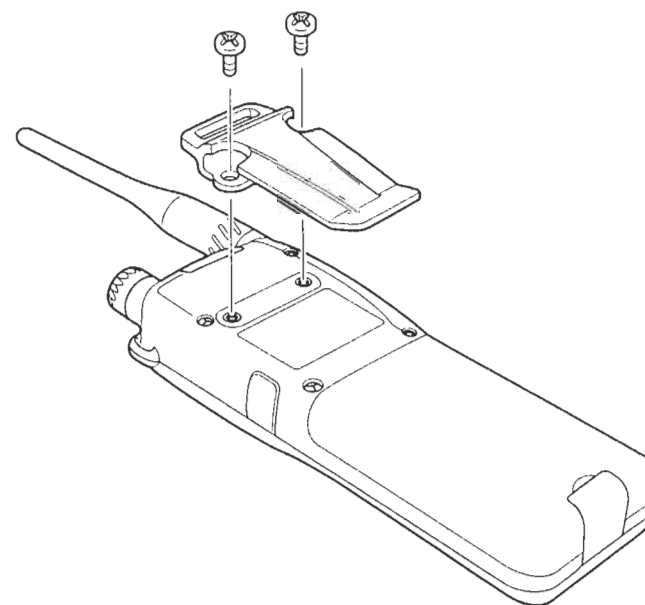


HX632Dについて

- 本機は、総務省の技術基準に適合した、特定小電力トランシーバーです。
- 免許および申請手続きはいっさい不要です。お買い上げになったその日から使えます。
- 通話ができる距離はスキー場や浜辺で約1～2 Km、市街地などで約100～200mです。
- この製品は、お使いになる状況に合わせて、いろいろな通話の方法が選べます。
この通話の方法のことを、本書では「モード」と呼びます。「モード」の設定については、9 ページをご覧ください。
- アフターサービスは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードのサービスセンター、営業所にお問い合わせください。
- この製品は、国内仕様です。国外では使用できません。

ベルトクリップの取り付けかた

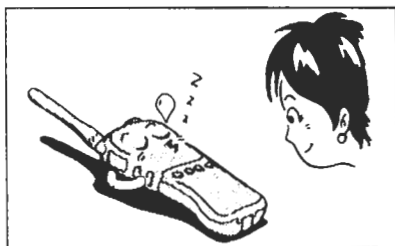
下図のように付属のビスでベルトクリップと本機を固定します。



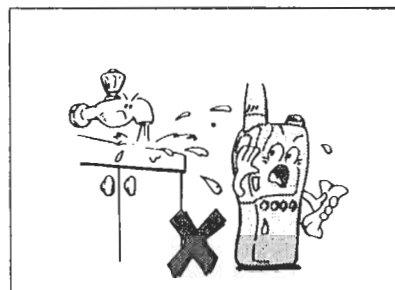
⚠ 注意

ベルトクリップは必ず付属のビスで取り付けてください。付属されている以外のビスを使用すると、本機の内部を破損したり、ベルトクリップが脱落して故障や事故の原因となることがあります。

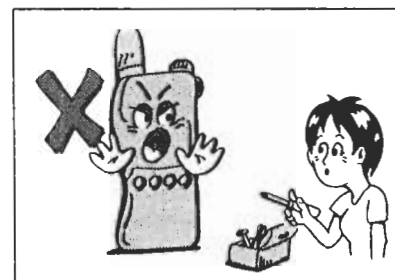
正しくお使いいただくために



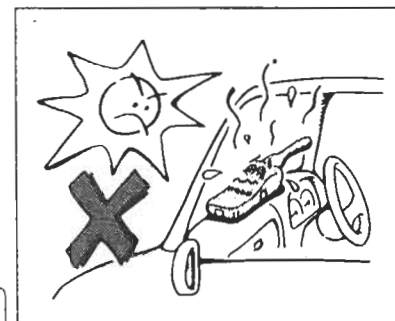
無線機などの使用が禁止されている場所では、電源を切ってください。



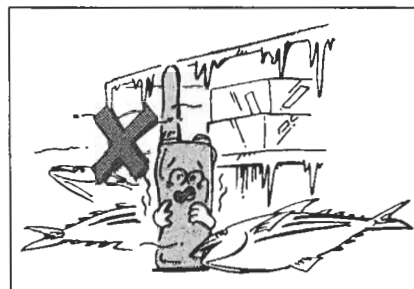
この製品は、防沫構造(JIS保護等級 4 防まつ形)になっています。しかし、水や湿気の多い所では、ご使用にならないでください。また水等がかかった場合は乾いた布等で、すぐに水分を拭き取ってください。



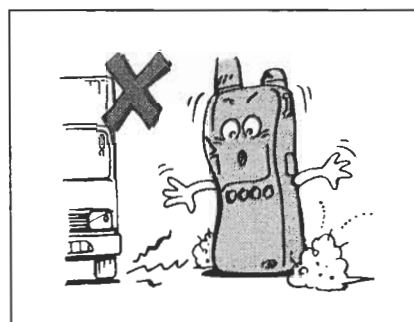
この製品の分解や改造は、法律により禁止されています。



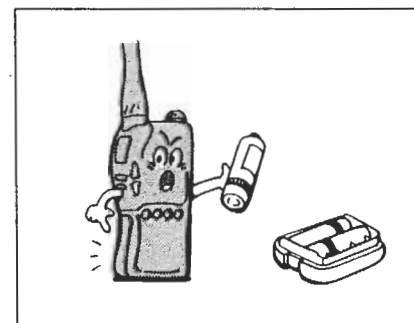
クルマのダッシュボードの上等、高温になる場所に放置しないでください。



保冷庫の中など、低温の場所では使用しないでください。

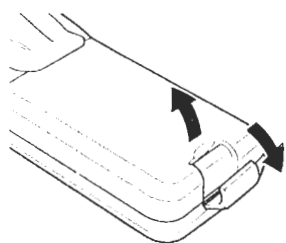


振動やホコリの多い場所では使用しないでください。

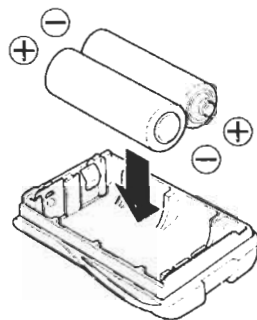


使える電池は、単3形のマンガン電池、アルカリ電池または別売のリチウムイオンバッテリーパックCNB632です。使い終わった電池は、火の中などに入れないでください。電池は繰り返し使えるCNB632をおすすめします。CNB632は、専用充電器CSA632で充電してください。

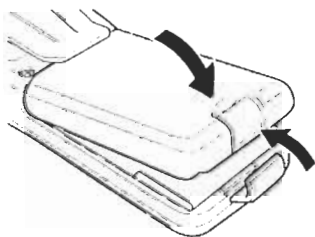
電池を入れるには



- 1** 電池ケースのロックをはずす
→ 電池ケースが取り外せます。



- 2** 極性(プラス・マイナス)に注意して電池をいれる



- 3** 電池ケースを閉め、ロックをする

 : 電池の残りが約20%以上です。

 : 電池の残りが約20%以下です。
(点滅)

 : 電池はほとんど空です。
(消灯) 電池を交換してください。

⚠ 注意

古い電池と新しい電池は混ぜて使わないでください。

使い終わった電池は、お住まいの地域で指示された方法に従って廃棄またはリサイクルしてください。

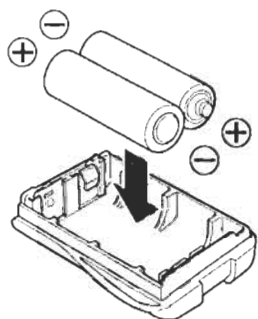
使える電池は、単3形のマンガン電池、アルカリ電池または別売のリチウムイオンバッテリーパックCNB632です。

無線機に別売のリチウムイオンバッテリーパックCNB632を取り付けたまま充電するときは、必ず無線機の電源スイッチを切ってから充電を行ってください。また、充電器は別売のCSA632をお使いください。

本機を長期間ご使用にならないときは、電池を本機から取り外してください。電池の液洩れにより、本機の故障の原因となる恐れがあります。

使ってみましょう

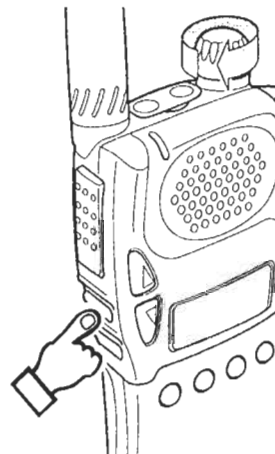
電池を正しく入れます。
→7ページの手順に従って
電池を正しく入れてくだ
さい。



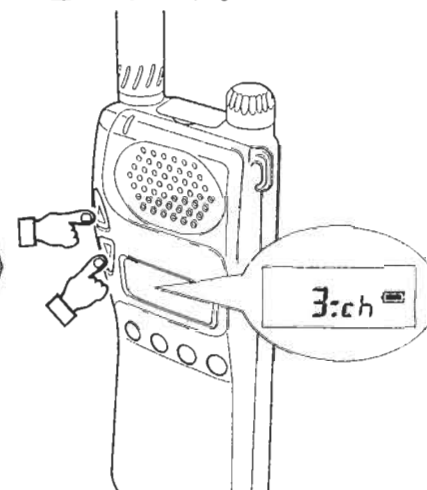
電源を入れます。



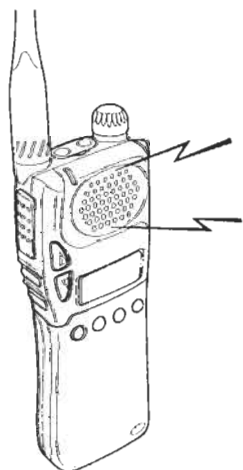
Mキーを押しながら、音量
ツマミを回し、適度な音量
にします。



話しをする人とチャンネル
を合わせます。



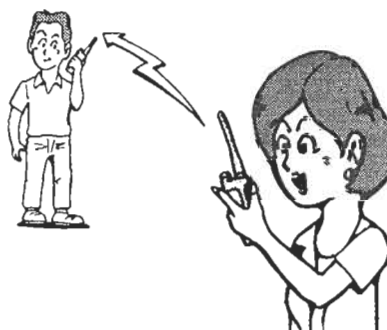
相手の人が送信すると、ス
ピーカーより声が聞こえま
す。



CALL/PTTスイッチを放
し、相手の人が送信するの
を待ちます。



CALL/PTTスイッチを押し
ながら、マイクに向かって
話します。



初期状態(工場出荷時)
は、単信モード(P9)に
なっています。

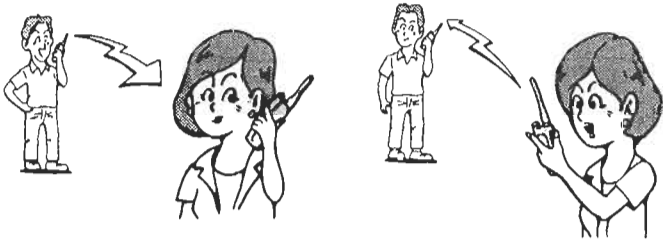
モードについて

単信モード

話しをする人とチャンネルを合わせ、送信・受信を交互に行います。

グループ単信モード

話しをする人とチャンネルとグループ番号を合わせ送信・受信を交互に行います。グループ番号が違っていたり、グループモードになっていない人からの送信を受け付けません。同じグループ番号に設定した人からの送信を静かに待つことができます。

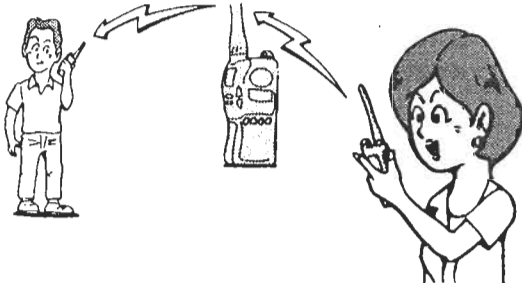


中継通信モード

中継局モードにより、中継機となった無線機を介して、送信・受信を行います。

中継局モード

無線機を中継機にします。このモードの無線機と中継通信モードの無線機を使うと、通話ができる距離を長くできます。



複信モード

話しをする人とチャンネルを合わせ、相手の人を呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。このモードでは通話中に、CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。

グループ複信モード

話しをする人とチャンネルとグループ番号を合わせ相手の人を呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。このモードでは通話中に、CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。グループ番号が違っていたり、グループモードになっていない人からの送信を受け付けません。同じグループ番号に設定した人からの呼び出しを静かに待つことができます。



単信方式と複信方式の切り換えは、無線機のディップスイッチの設定により行います。ディップスイッチは、バッテリーケースを外した、無線機内部にあります。各モードの設定方法は、「モードを設定するには (P14)」または各モードの使用方を説明している箇所 (P16~19) をご覧ください。

はじめに

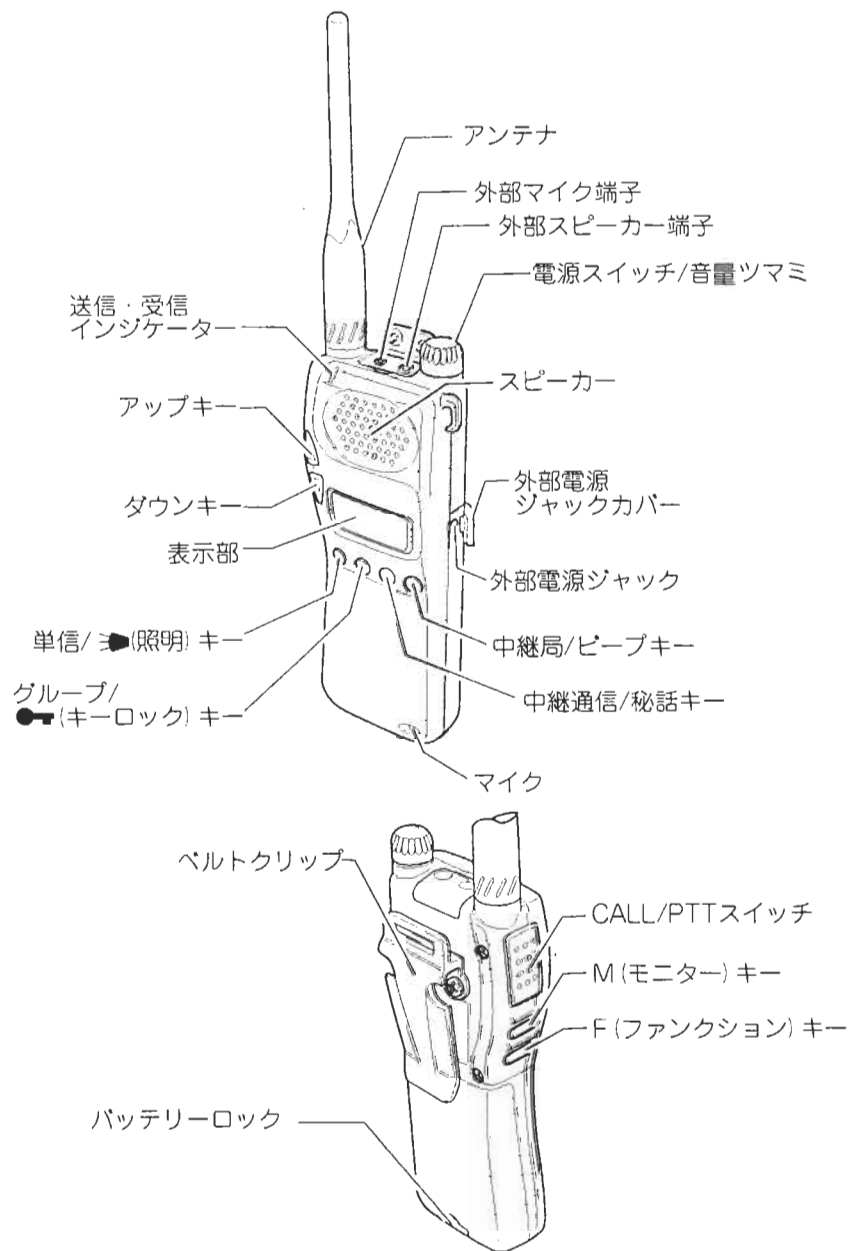


お使いになる前の準備

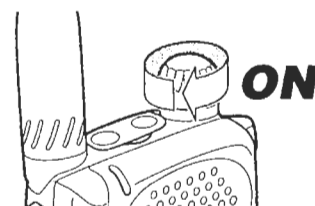
各部の名前	12
音量を調整するには	12
ディップスイッチを設定するには	13
チャンネルを合わせるには	13
モードを設定するには	14



各部の名前



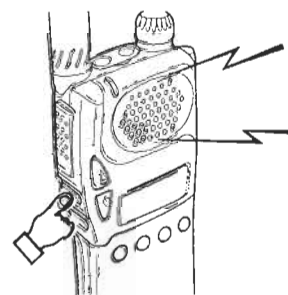
音量を調整するには



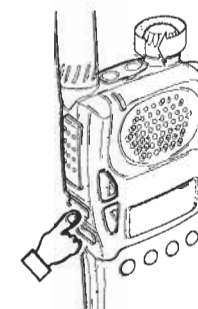
1 電源/音量ツマミを回し、電源を入れます。

2 スピーカーから音が出ていないことを確かめます。

3 Mキーを押します。
→「ザー」という音がスピーカーより出ます。



4 この音を目安に、音量ツマミを回し、音量を調整します。



⚠ 注意

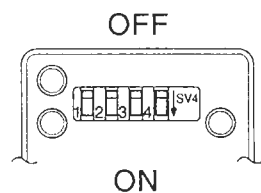
音量は、大きくならないようにしてください。
特に、本体のスピーカーを使っていた後に、ヘッドセットなどを使うときは音量を下げてください。突然、受信したときに、耳を痛める恐れがあります。

ディップスイッチを設定するには

ディップスイッチ



- 1** 電池ケースを本体から外す
→ ディップスイッチが見えます。

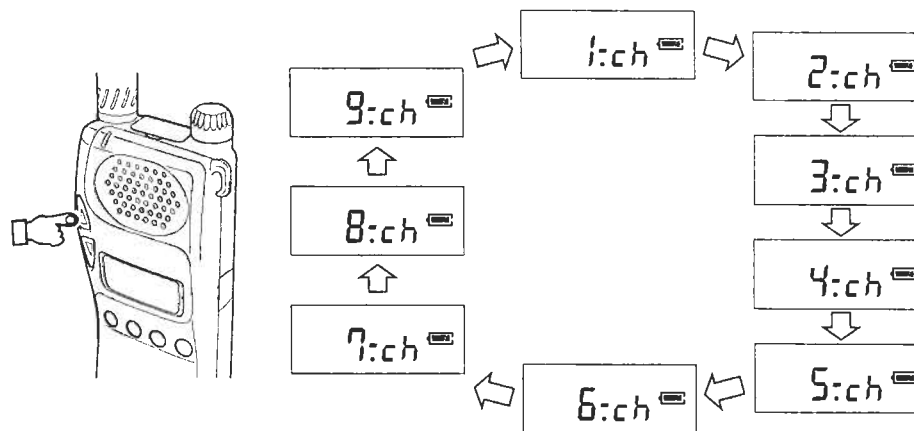


- 2** ディップスイッチの設定を行う
→ ディップスイッチの設定は下記の表をご覧ください。
→ 工場出荷時は、全てOFFになっています。

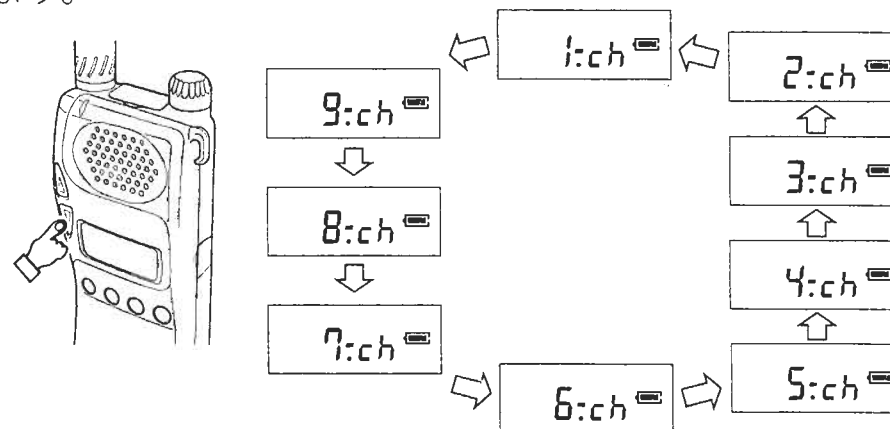
ディップスイッチの番号	OFF (オフ)	ON (オン)
1	単信使用	複信使用
2	複信使用時に自動で着信、接続を行う	複信使用時に手動で着信、接続を行う
3	未使用	未使用
4	複信モニターオフ	複信モニターオン

チャンネルを合わせるには

▲(アップ)キーを1回押すごとに、上のチャンネルに変わります。



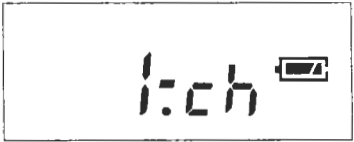
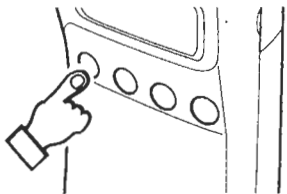
▼(ダウン)キーを1回押すごとに、下のチャンネルに変わります。



モードを設定するには

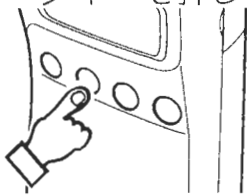
単信モード

単信キーを押します。



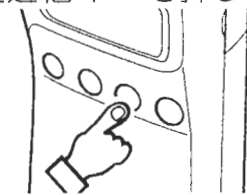
グループ単信モード

グループキーを押します。



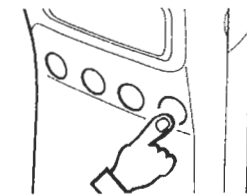
中継通信モード

中継通信キーを押します。



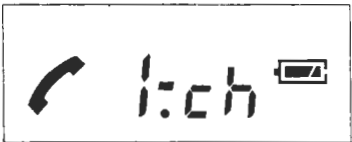
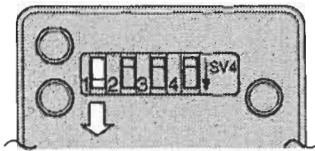
中継局モード

中継局キーを押します。



複信モード

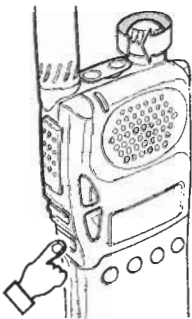
ディップスイッチの1番をONにします(P13)。



グループ複信モード

ディップスイッチの1番をONにします(P13)。Fキーを押しながら電源を入れます。

複信モードに戻すには、Fキーを押しながら電源を入れます。



各モードの説明は、「モードについて(P9)」または各モードの使用方法を説明している箇所(P16~19)をご覧ください。

相手の人とモードが違っていると、お話しはできません。モードは必ず合わせてください。

複信モードおよびグループ複信モードが選ばれているときは、モードキーを押してもモードは変わりません。複信モードおよびグループ複信モード以外にするとときは、ディップスイッチの設定を変えてください。

各モードの使いかた

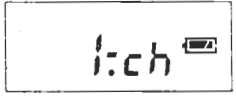
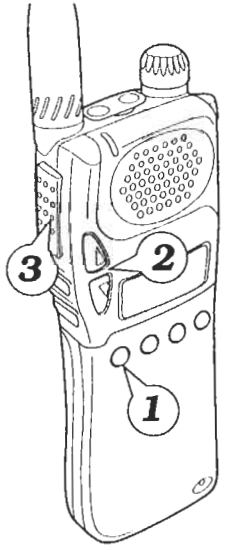
単信モードを使うには	16
グループ単信モードを使うには	16
中継通信モード／中継局モードを使うには	17
複信モードを使うには	18
グループ複信モードを使うには	19
お話しするときの注意	20

単信モードを使うには

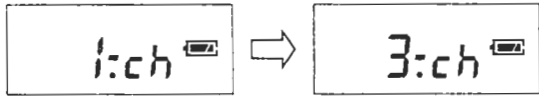
話しをする相手の人とチャンネルを合わせ、送信・受信を交互に行います。

◆ ディップスイッチの1番は、OFFにしてください。

1 単信キーを押す



2 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる



3 CALL/PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す
→送信状態になります。

4 CALL/PTTスイッチを放す
→受信状態になります。
→相手の人が送信すると、スピーカーより声が聞こえます。

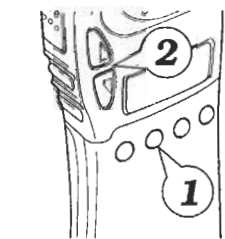
- 1回の送信時間は、30秒までです。30秒を越えると送信は自動的に止まります。
- 自動的に送信が停止した後も、CALL/PTTスイッチを押し続けていると、2秒後に再度送信を開始します。
- 相手の人以外の声で通話がじゃまされるときは、モードをグループ単信モードに変えてください。
- 単信モードは他の特定小電力無線機と互換性があります。他の特定小電力無線機と一緒にお使いになるときは、それぞれの無線機の取扱説明書をご覧ください。

グループ単信モードを使うには

話しをする人とチャンネルとグループ番号を合わせ送信・受信を交互に行います。

◆ ディップスイッチの1番は、OFFにしてください。

1 グループキーを押す



2 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる

3 Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、相手の人にグループ番号を合わせる



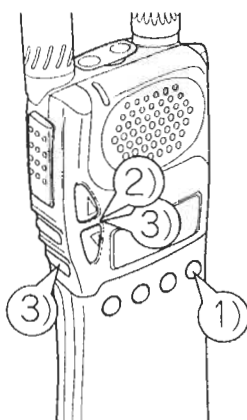
4 CALL/PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す
→送信状態になります。

5 CALL/PTTスイッチを放す
→受信状態になります。
→相手の人が送信すると、スピーカーより声が聞こえます。

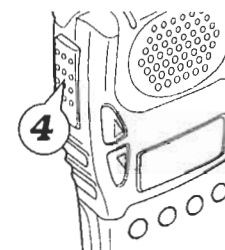
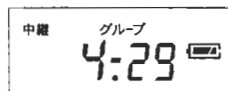
- 1回の送信時間は、30秒までです。30秒を越えると送信は自動的に止まります。
- 自動的に送信が停止した後も、CALL/PTTスイッチを押し続けていると、2秒後に再度送信を開始します。
- グループ番号が違っていたり、グループモードになっていない人からの送信を受けても、音声は出ません。
- グループ単信モードは当社の特定小電力無線機HX620/HX621のグループ送信30秒モードと互換性があります。HX620/HX621と一緒にお使いになるときは、HX620/HX621の無線機の取扱説明書をご覧ください。

中継通信モード／中継局モードを使うには

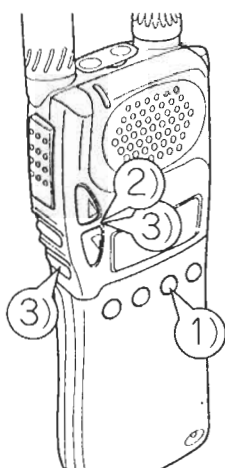
◆ ディップスイッチの1番は、OFFにしてください。



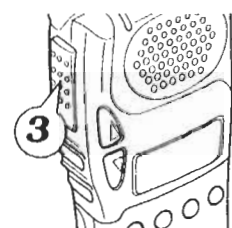
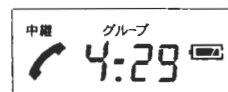
- 1 中継局を設定する
 - 1) 中継局キーを押し、中継局モードにします。
 - 2) ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせます。
 - 3) Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、相手の人にグループ番号を合わせます。



- 4 CALL/PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す
- 5 CALL/PTTスイッチを放す
→相手の人が送信すると、スピーカーより声が聞こえます。



- 2 中継局を使う無線機を設定する(中継通信モード局の設定)
 - 1) 中継通信キーを押し、中継通信モードにします。
 - 2) ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせます。
 - 3) Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、相手の人にグループ番号を合わせます。

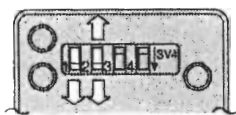


- 3 中継通信モード局のCALL/PTTスイッチを1秒位押してから放す
→スピーカーより「ピー」という音がします。これで中継局が使えるようになりました。(回線がつながりました。)

- 中継局と中継通信モード局が近いと、両方の局とも受信したままになることがあります。
- 中継局に設定された無線機は、受信した電波を自動的に送信します。
- 中継局のMキーを押すと、中継を行っている局どうしの通話を聞くことができます。また、CALL/PTTスイッチを押すと中継局も話しができます。
- 中継通信モード局が送信しないと、中継局は通話の回線を保持するため、自動的に「ピー」音を断続的に送信します。
- 回線が切れる前に「ブー」音がします。このときは、再度CALL/PTTスイッチを押してください。
- 中継通信モード／中継局モードは当社の特定小電力無線機HX620の中継通信モード／中継局モードと互換性があります。HX620と一緒にお使いになるときは、HX620の無線機取扱説明書をご覧ください。

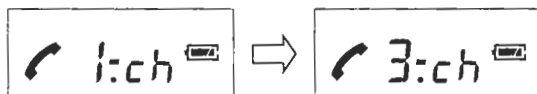
複信モードを使うには

話しをする相手の人とチャンネルを合わせ、呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。



- 1 ディップスイッチを設定する
→ ディップスイッチの1番は、ONにしてください。
→ ディップスイッチの2番は、OFFのとき、自動着信・接続します。ONのとき、手動着信・接続します。

- 2 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる



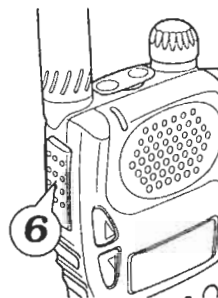
- 3 呼び出すとき
CALL/PTTスイッチを押す
→ 「プルルル」という音がします。
→ 相手の人の返事を待ちます。

- 4 呼び出されたとき
「プルルル」という音がする
→ 自動着信・接続を選んでいるときは、そのまま通話状態になります。
→ 手動着信・接続を選んでいるときは、CALL/PTTスイッチを押します。

5 通話中は

- 無線機のスピーカーを耳にあてたまま、電話のようにお話しください。
- CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。

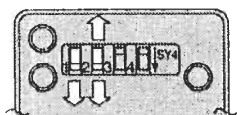
- 6 CALL/PTTスイッチを押し、通話を終了する



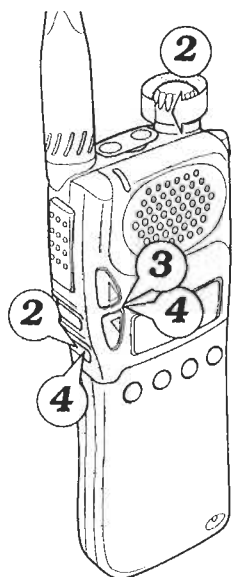
- 通話時間が3分間を越えると2秒以上回線が切れた後自動的に回線を再接続します。
- 電波が2秒を越えてとぎれたときは、通話が終了します。
- 返事をしたときに「プープー」という音がするときは、相手が話し中、または電波が届かなかったときです。
- 呼び出し音が7回鳴っても返事がないときは、電波は届いているが相手の人が返事をしなかったときです。
- 3人以上で使うときは、グループ複信モードでグループコードをそれぞれ異なるコードにしてください。

グループ複信モードを使うには

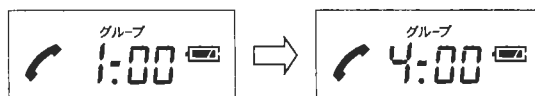
話しをする相手の人とチャンネルとグループ番号を合わせ、呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます



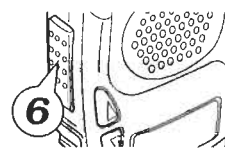
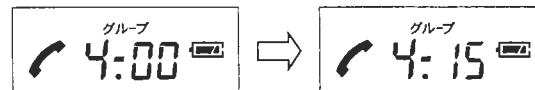
- 1 ディップスイッチを設定する
→ ディップスイッチの1番は、ONにしてください。
→ ディップスイッチの2番は、OFFのとき、自動着信・接続します。ONのとき、手動着信・接続します。
- 2 Fキーを押しながら、電源を入れる
→ グループ複信モードになります。
→ 次からは、電源を入れるだけで、グループ複信モードになります。



- 3 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる



- 4 Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、相手の人にグループ番号を合わせる

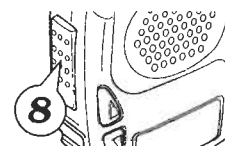


- 6 呼び出されたとき

「プルルルル」という音がする
→ 自動着信・接続を選んでいるときは、そのまま通話状態になります。
→ 手動着信・接続を選んでいるときは、CALL/PTTスイッチを押します。

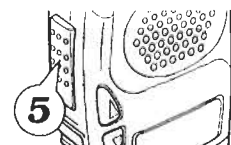
- 7 通話中は

→ 無線機のスピーカーを耳にあてたまま、電話のようにお話しください。
→ CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。



- 8 CALL/PTTスイッチを押し、通話を終了する

- 通話時間が3分間を越えると2秒以上回線が切れた後自動的に回線を再接続します。
- 電波が2秒を越えてとぎれたときは、通話が終了します。
- 返事をしたときに「ブーブーブー」という音がするときは、相手が話し中、または電波が届かなかったときです。
- 呼び出し音が7回鳴っても返事がないときは、電波が届いていない、または相手の人が返事をしなかったときです。
- 呼び出したときに「プルルルル」という音が出ても、呼び出す相手が通話できる状態であると限りません。
- 3人以上で使う場合に自動着信・接続を選んだときは、グループ番号をそれぞれ異なる番号にしてください。自動着信・接続を選び、グループ番号が同じときは、うまく接続できないことがあります。
- 手動着信・接続を選んだときは、グループの中で一番早くCALL/PTTスイッチを押した人と通話が出来ます。
- グループ複信モードは当社の特定小電力無線機HX620のグループ電話モードと互換性があります。HX620から呼ばれた場合、呼び出し中にHX620で設定された局コードが点滅します。HX620と一緒にお使いになるときは、HX620の無線機の取扱説明書をご覧ください。



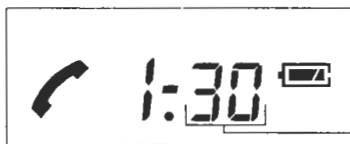
- 5 呼び出すとき

CALL/PTTスイッチを押す
→ 「プルルルル」という音がします。
→ 相手の人の返事を待ちます。

お話しするときの注意

カウントダウン表示について

この無線機には、通話時間の残り時間を表示する「カウントダウン表示」機能があります。複信モード、グループ複信モード、中継通信モード/中継局モードでは、残り時間が30秒からカウントダウンを始めます。単信モード及びグループ単信モードでは5秒前からカウントダウンを始めます。カウントダウンが始まると「ピッピッピッ」という送信タイムアウト警告音が出ます。また、表示部には残り時間(秒数)が表示されます。



残り時間表示

送信時間について

(対象：単信モード、グループ単信モード)

送信時間とは、一度CALL/PTTスイッチを押してから放すまでの時間です。CALL/PTTスイッチを放している時間が2秒以下の時は、放している時間も送信時間に含まれません。送信時間は30秒までです。

通話時間について

(対象：複信モード、グループ複信モード、中継通信モード、中継局モード)

通話時間とは、二人で交互に話しを行い、その話しが終わるまでの時間です。中継通信モードのときに、CALL/PTTスイッチを放している時間が2秒以下の時は、放している時間も通話時間に含まれます。通話時間は3分までです。

送信警告音(ブーブー音)について

CALL/PTTスイッチを押したときに、「ブーブー」という警告音ができることがあります。これは、他の人がすでにそのチャンネルを使って通信しているときです。インジケータの緑色点灯が消えるのを待つか、チャンネルを他に変えてご使用ください。

マイクと口元の距離について

単信モードや中継通信モードをお使いの時は、マイクから口元の距離は3～5cmにしてください。マイクに口を近づけすぎますと、相手の人への音声聞き取りにくくなる場合があります。

無線機どうしの距離について

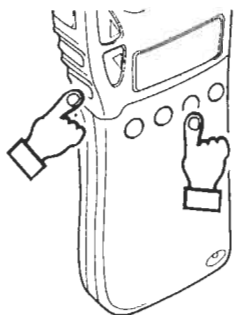
無線機どうしを近づけて、お話しになると「キーン」という音ができることがあります。このようなときは、離してお使いください。

こんなときには

話しを聞かれたくないとき	22
話しがとぎれるとき	22
バッテリーセーブを解除するとき	23
間違って動作するのを防ぎたいとき	23
キー操作音（ピープ音）を消したいとき	24
表示部に照明をつけるとき	24
複信時の通話をモニターするには	25
買った始めの状態に戻したいとき	26
表示部が分からないとき	26
外部電源ジャックについて	27
複信・グループ複信モードを便利に使うには	27
チャンネルを拡張するには	28

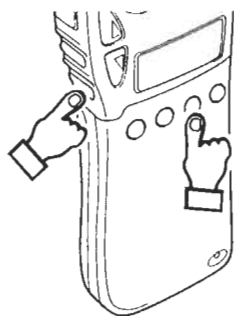
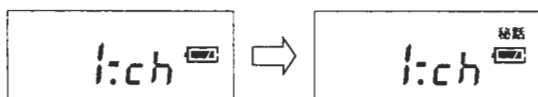
話を聞かれないとき

秘話機能を使い話を聞かれないようにすることができます。



Fキーを押しながら、秘話(中継通信)キーを押す

- 秘話機能が働きます。
- 表示部に「秘話」が表示されます。



解除するには

Fキーを押しながら、秘話キーを押す

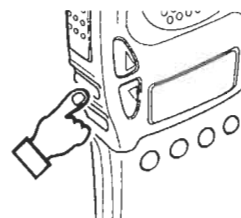
- 秘話機能が解除されます。
- 表示部の「秘話」が消えます。



- 秘話機能はすべてのモードで使えます。
- 話しをする相手の人も秘話機能にしていないと、話しはできません。
- 他の機種でも、秘話機能のあるものには通話を聞かれることがあります。高度な機密を必要とする通話でのご使用は、お避けください。

話しがとぎれるとき

電波の状態がよくないときに、お話しがとぎれことがあります。これをモニター機能で防ぐことができます。

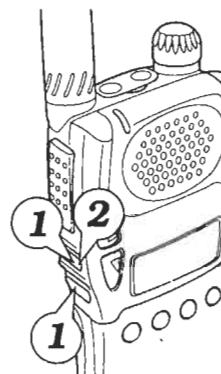


Mキーを押します。

- Mキーを押している間は、モニター状態になります。続けて話しがきけます。ただし、「ザー」という音が話しに入ることがあります。

モニター状態を続けるには

- 1 Fキーを押しながら、Mキーを押す
→ それぞれのキーを放しても、モニター状態が続きます。

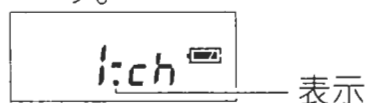


- 2 解除するには、Mキーを押す

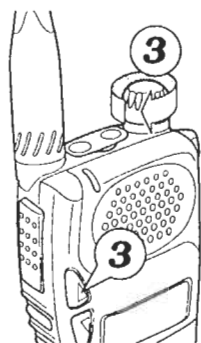
バッテリーセーブを解除するとき

本機は、初期状態ではバッテリーセーブ機能が働いています。バッテリーセーブ機能は、キーの操作や送信・受信がないとき自動的に消費する電流を少なくします。

- 1 表示部に「●」が表示されていることを確認する
→ バッテリーセーブ機能が働いています。



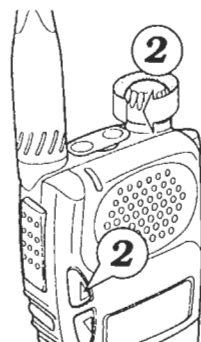
表示



- 2 電源を切る

- 3 ▲キーを押しながら、電源を入れる
→ 表示部に表示がでるまで、キーは押し続けてください。

- 4 表示部に「●」が表示されていないことを確認する



バッテリーセーブを使うには

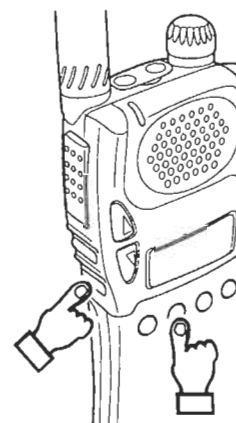
- 1 電源を切る

- 2 ▲キーを押しながら、電源を入れる

● 電池の消耗を防ぐために、バッテリーセーブはできるだけ解除しないでください。

間違って動作するのを防ぎたいとき

間違ってキーを押し、動作が変わってしまうのを防ぐための機能として、キーロック機能があります。



F キーを押しながら、● (グループ) キーを押す

→ 表示部に「●」が表示されていることを確認する

→ キーを押しても「ブツ」という音がして、キー操作が出来なくなります。

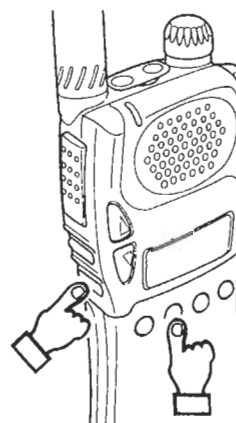
→ CALL/PTTスイッチ、MキーおよびFキーは、使えます。



表示

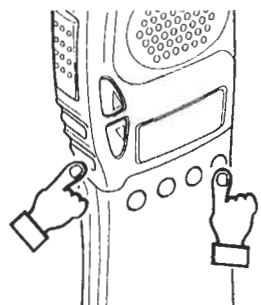
キーロックを解除するには

F キーを押しながら、● (グループ) キーを押す

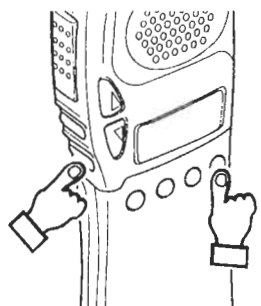


キー操作音(ビープ音)を消したいとき

キーを押したときに、出る音を消すことができます。

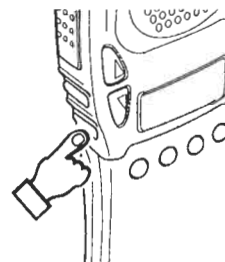


Fキーを押しながら、ビープ(中継局)キーを押す
→キーを押してもビープ音がでません。

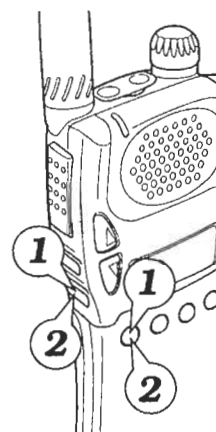


解除するには
Fキーを押しながら、ビープ(中継局)キーを押す

表示部に照明をつけるとき



Fキーを押します。
→Fキーを放しても、5秒間は照明が点灯します。

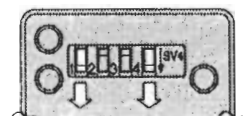


照明を点灯したままにするには
1 Fキーを押しながら、☞(単信)キーを押す
→それぞれのキーを放しても、照明は点灯したままになります。

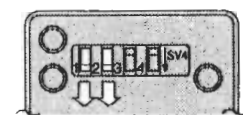
2 解除するには、Fキーを押しながら、☞(単信)キーを押す

複信時の通話をモニターするには

複信モードまたはグループ複信モードを使用しての通話をモニターすることができます。



- 1** 通話する局(通話局)のディップスイッチを設定する
 - 1) ディップスイッチの1番及び4番をONにします。
 - 2) 電源を入れ直し、モードを複信モードまたはグループ複信モードにします。

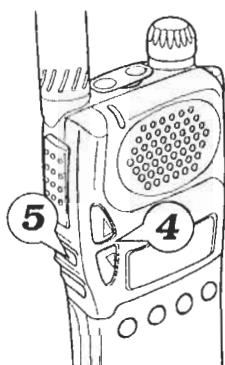


- 2** モニターする局(モニター局)のディップスイッチを設定する
 - 1) ディップスイッチの1番及び2番をONにし、電源を入れ直します。

- 3** 通話局は、複信モードまたはグループ複信モードにて通話を行う

- 4** モニター局は、モニターしたい通話局にチャンネルを合わせる

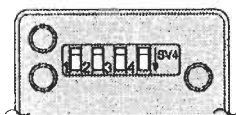
- 5** モニター局は、Mキーを押す
 - 複信モードまたはグループ複信モードで通話を行っている局どうしの通話が同時に聞こえます。



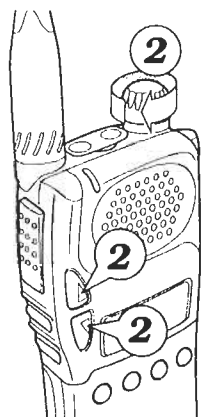
- 通話局のディップスイッチ4番がOFFになっていると、その人の相手の通話をモニターすることはできません。通話の内容を聞かれない場合は、ディップスイッチ4番をOFFしてください。
- モニター局のディップスイッチ2番が、ONになっていない時は、誤接続することがあります。モニター局のディップスイッチ2番は必ずONにしてください。

買った始めの状態に戻したいとき

オールリセットを行うことで、すべての設定を買った始めの状態にもどすことができます。

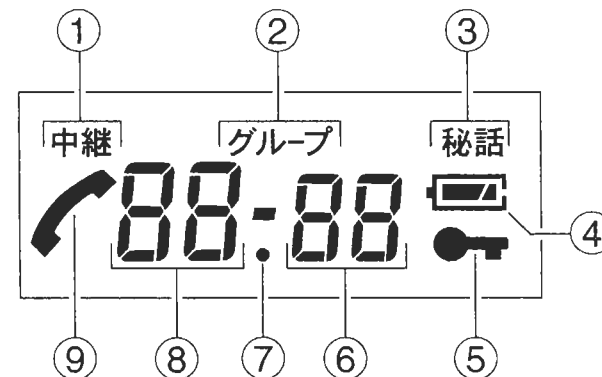


1 ディップスイッチをすべてOFFにする



2 ▲と▼キーを押しながら、電源を入れる
→ 表示部に表示がでるまで、キーは押し続けてください。
→ 表示部は、一瞬すべて点灯します。
→ 工場から出荷した状態に戻ります。

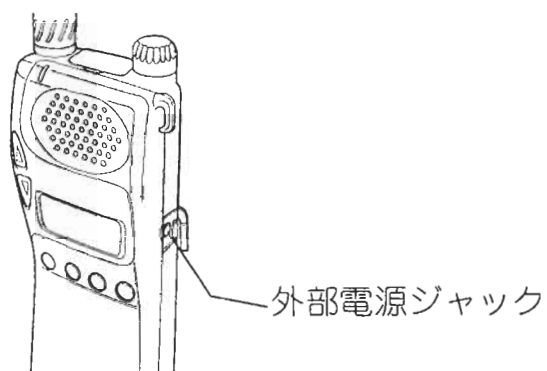
表示部が分からないとき



- ① 中継局モードまたは中継通信モードのときに表示。
- ② 各グループモード、中継局モードまたは中継通信モードのときに表示。
- ③ 秘話機能が働いているときに表示。
- ④ 電池の残量を表示。
- ⑤ キーロックが働いているときに表示。
- ⑥ 各グループモードでは、グループ番号を表示。
単信モード、複信モードでは、「ch」を表示。
カウントダウン時は、残りの秒数を表示。
- ⑦ バッテリーセーブが働いているときに表示。
- ⑧ チャンネルを表示。
- ⑨ 複信モード、グループ複信モード、中継通信モードのときに表示。

外部電源ジャックについて

本機の外部電源ジャックには、極性統一型DCジャックを採用しています。極性統一型DCプラグ採用の4.5V～6VのACアダプタが使用できます。詳しくは、(株)スタンダードのサービスセンター、営業所にお問い合わせください。



外部電源ジャック

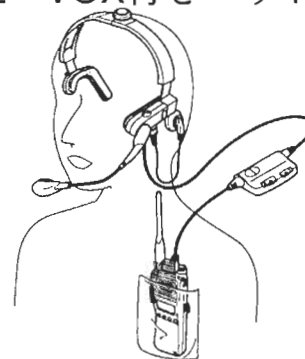
- 使用するACアダプターによっては、「ブーン」というハム音がスピーカーより出ることがありますが、故障ではありません。

外部電源ジャックから、別売りのリチウムイオンバッテリーパックCNB632は、充電できません。CNB632を充電する場合は、必ず別売りの充電器CSA632をご使用ください。

複信・グループ複信モードを便利に使うには

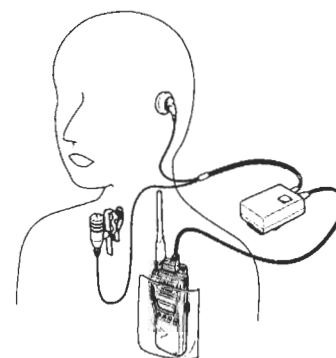
別売品のCALL・VOX付きヘッドセットCHP620またはタイピンマイクCMP113をお使いになると、複信モードまたはグループ複信モードでさらに便利な使いかたができます。

CALL・VOX付きヘッドセットCHP620を使って



- このヘッドセットを使えば、無線機をポケットに入れたままでCALLキーが押せます。複信モードまたはグループ複信モードで通話が始まると、ポケットに無線機を入れたままでも話しができます。

タイピンマイクCMP113を使って

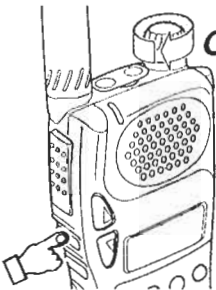


- このタイピンマイクのPTTをLOCKにします。そして、無線機のCALL/PTTスイッチを押します。複信モードまたはグループ複信モードで通話が始まると、ポケットに無線機を入れたままでも話しができます。

- 通話中にヘッドセットは、抜き差ししないでください。誤動作の原因になります。
- ヘッドセットCHP620、タイピンマイクCMP113をご使用になるときは、それぞれの取扱説明書もよくご覧ください。

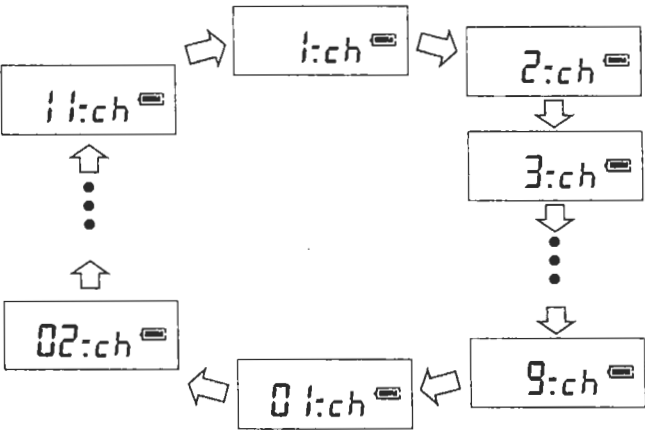
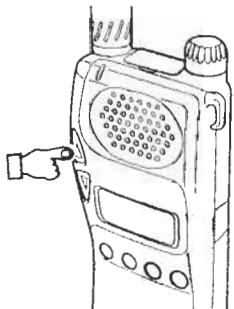
チャンネルを拡張するには

チャンネルを拡張することで、従来のチャンネルに加え業務用チャンネルの01から11が使えるようになります。また、中継通信モード／中継局モードでも01から18チャンネルが使えるようになります。

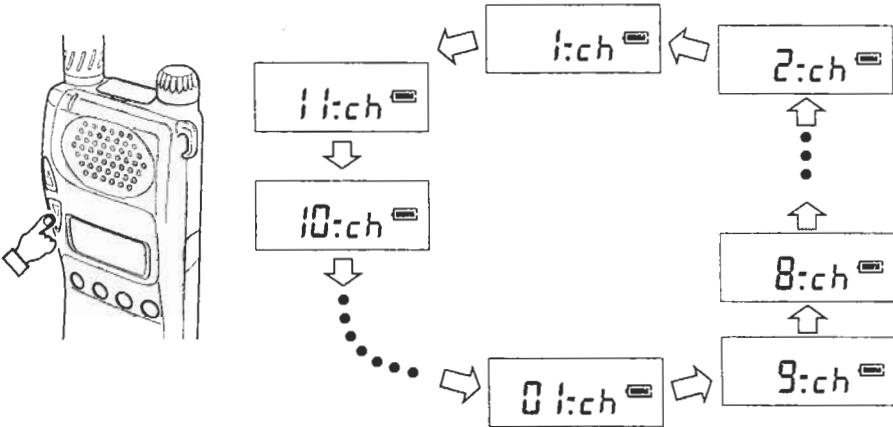


ON 1 Mキーを押しながら、電源を入れる
→スピーカーより「ピッ」と音がして電源が入り、チャンネルが拡張されたことを知らせます。

2 チャンネルを変えるには、▲(アップ)キーまたは▼(ダウン)キーを押す
→▲キーを1回押すごとに、上のチャンネルに変わります。



→▼キーを1回押すごとに、下のチャンネルに変わります。



3 チャンネルの拡張をやめるには、一度電源を切った後で、手順1を行う
→スピーカーより「プッ」と音がして電源が入り、チャンネルが元に戻ったことを知らせます。

- 単信モードの場合、他の特定小電力無線機(9ch無線機、11ch無線機、20ch対応無線機)と互換性があります。
- 表示される1から9が従来のチャンネルです。チャンネルを拡張することで01から11の業務用チャンネルが使用できるようになります。
- 中継通信モード／中継局モードを設定している場合は、1～9チャンネル／01～18チャンネルとなります。また、表示部に「中継」が表示されます。

ご参考に

故障とお考えになる前に	30
オプション（別売品）の紹介	32
定格	33
アフターサービスについて	34

故障とお考えになる前に

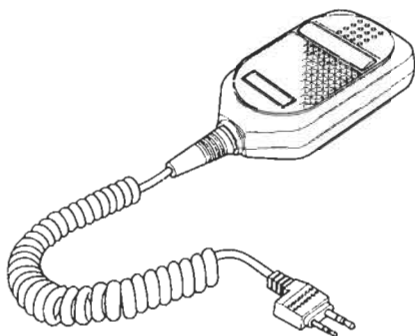
サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをご確認ください。下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの(株)スタンダードの営業所またはサービスセンターにご相談ください。

症 状	原 因	処 置	参照ページ
スピーカーから「ザー」という音が出る	モニターがロックされています。	Mキーを押して、ロックを解除してください。	22
モニター状態が終わらない			
送信できない	電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	他の人が同じチャンネルを使っています。	使い終わるのを待つか、他のチャンネルを使ってください。	20
電源が入らない	乾電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	リチウムイオンバッテリーパックが消耗しています。	電池を取りかえてください。それでも電源が入らないときは、一度電源を切ってから10秒程度経過してから電源スイッチを入れてください。	7
	電源電圧が高く、過電圧保護機能が働いています。	電源電圧を適正にした後一度電源スイッチを切ってください。電源を切ってから10秒程度経過してから電源スイッチを入れてください。それでも電源が入らないときは、電源スイッチを切り、2～3分経過してから電源スイッチを入れてください。	—
CALL/PTTスイッチを押すと「ブー」という音がする	他の人が同じチャンネルを使っています。	使い終わるのを待つか、他のチャンネルを使ってください。	20

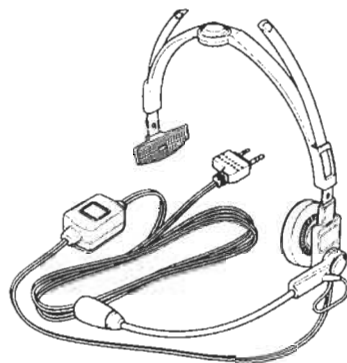
症 状	原 因	処 置	参照ページ
受信できない	電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	モードが合っていない。	モードを相手の人に合わせてください。	9, 14
	チャンネルが合っていない。	チャンネルを相手の人に合わせてください。	13
	グループ番号が合っていない。	グループ番号を相手の人に合わせてください。	16, 19
	音量が小さくなっている。	音量を適当な大きさに調整してください。	12
	秘話機能が働いてる。	秘話機能を解除してください。	22
通話の最初のことがとぎれる	グループ番号を最初に送信するためです。	CALL/PTTスイッチを押した後に、少し時間を開けてからお話してください。	—
話しがとぎれとぎれになる	相手の人と離れ過ぎています。	距離を縮めてください。	—
キーを押しても音が出ない	ピープ音が消されています。	Fキーを押しながら、ピープ（中継局）キーを押して、ピープ音が出る設定にしてください。	24
キーを受け付けない	キーロック機能が働いています。	Fキーを押しながら、  （グループ）キーを押して、キーロック機能を解除してください。	23
照明が消えない	照明がロックされています。	Fキーを押しながら、  （単信）キーを押して、照明のロック状態を解除してください。	24
設定が初期の状態に戻らなかった		オールリセットを行ってください。	26

オプション（別売品）の紹介

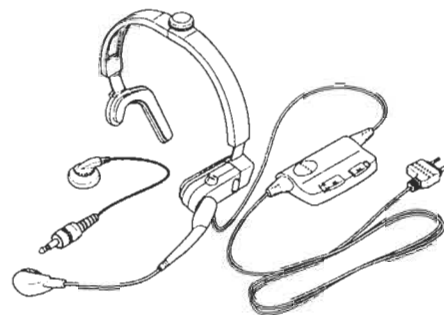
マイク&スピーカー
CMP111
複信モードでは使えません



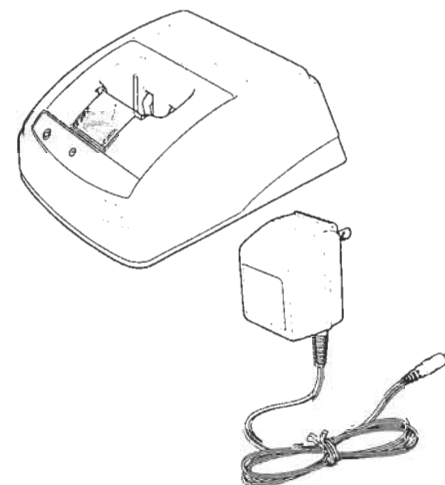
PTT付きヘッドセット
CHP111
複信モードでは使えません



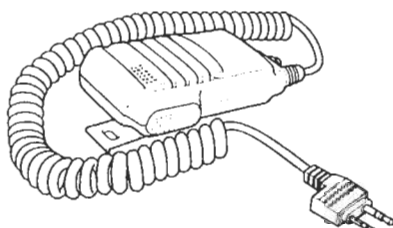
VOX/CALL付きヘッドセット
CHP620



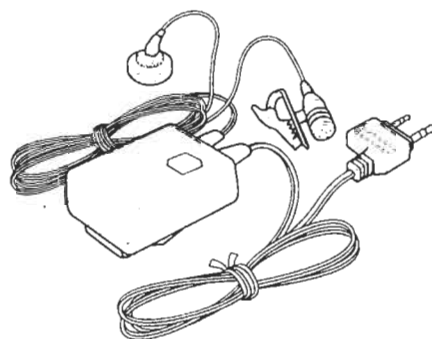
充電器
CSA632



マイク&スピーカー
CMP115
複信モードでは使えません

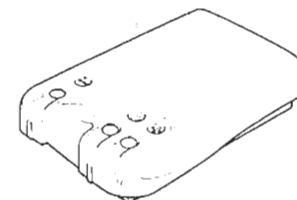


タイピンマイク
CMP113



ヘルメットクリップ
CMB600
CHP620と一緒にお使いください

リチウムイオンバッテ
リーパック
CNB632 (600mAh)



定格

一般仕様

送受信周波数 400 MHz帯の47チャンネル
通信方式 単信方式、複信方式または半複信方式
電波型式 F3E
発振方式 周波数シンセサイザ方式
定格電圧 3.0 V
接地方式 マイナス接地
動作温度範囲 -10℃～+50℃
寸法(高さ x 幅 x 奥行き) 122 x 42 x 21 mm
重量 145 g
(単3乾電池2本使用)
アンテナ 固定式ヘリカルアンテナ

受信部

受信方式 ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数 第一中間周波数 -23.05 MHz
..... 第二中間周波数 +450 kHz

受信感度

単信時、半複信時 -7dB μ 以下(12dB SINAD測定法による)
複信時 -4dB μ 以下(12dB SINAD測定法による)
スケルチ感度 -14dB μ
低周波出力 60 mW以上(8 Ω 負荷、10%歪時)
消費電流 約20mA(バッテリーセーブ時)
..... 約50 mA(待ち受け時)
副次的に発射する電波等の限度 4000 μ W以下

送信部

変調方式 リアクタンス変調
送信出力 10mW
最大周波数偏移 ± 2.5 kHz以下
消費電流 約70mA
不要輻射 -29 dBm以下
占有周波数帯幅 8.5kHz以内

電池交換の目安

モード名	単3アルカリ	単3マンガン	CNB632	条件
単信 グループ単信 中継通信	50時間	23時間	20時間	送信30秒 受信30秒 待受4分
複信 グループ複信 中継局	30時間	11時間	14時間	通話3分 待受12分

この製品の規格及び外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターにご相談ください。

株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目8番8号

お問い合わせは、
最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンターで
承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。